

江之浦～焚場地区の高潮対策について (護岸形状・デザイン案の具体化)

令和2（2020）年3月
広島県

江之浦～焚場地区の高潮対策については、海岸背後の住民の生命・財産等を高潮や津波から防護するための防災上必要な機能を確保するとともに、軒の景観や歴史的遺構の価値保全に配慮し、平成29（2017）年2月に護岸形状・デザイン案を取りまとめました。

その護岸形状・デザイン案を基に詳細な設計を進めるにあたり、次の専門家で構成するデザイン検討会議を設置し、デザインコンセプトを定め、ディテールや亀甲状石積の保存手法を踏まえた詳細デザインを約1年間にわたって検討しました。

今後も引き続き、専門家の意見を聴きながら、高潮対策を実施してまいります。

デザイン検討会議委員名簿

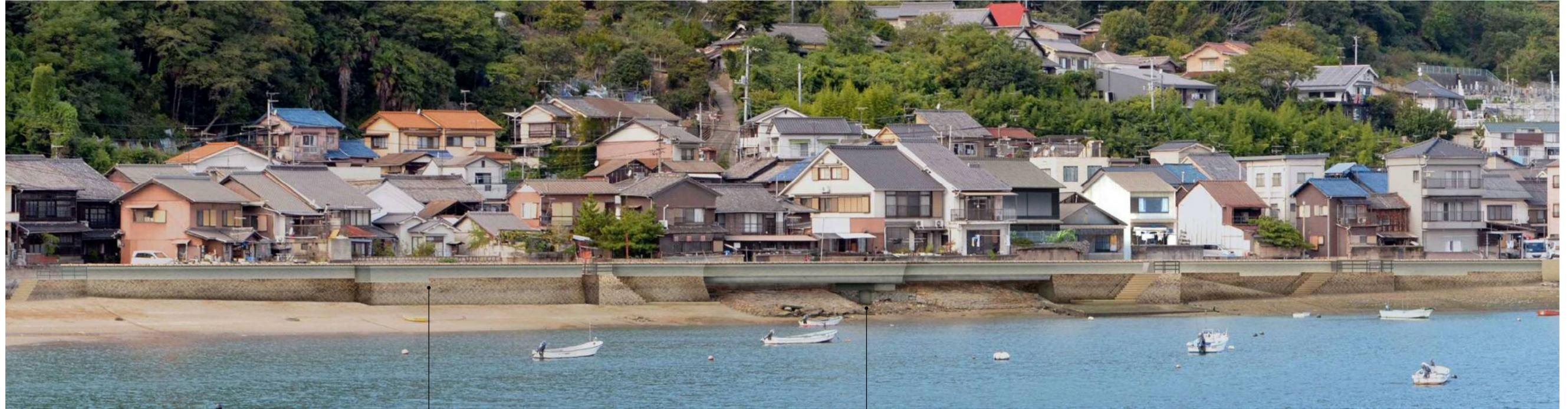
専門分野	氏名（敬称略）	所属・職名等	備考
景観デザイン	篠原 修	東京大学名誉教授	座長
文化財（歴史まちづくり）	苅谷 勇雅	元 文化庁文化財鑑査官	
考古学	鈴木 康之	県立広島大学人間文化学部教授	
歴史的建造物保存修復	高村 功一	元 文化財建造物保存技術協会 大阪支部 副支部長	
建築意匠・都市形成史	藤田 盟児	奈良女子大学研究院教授	

江之浦～焚場地区 詳細デザイン

具体的イメージ：焚場地区護岸部

○焚場地区護岸部

※平成29年10月撮影の写真を元に計画イメージを作成



護岸の分節
・背後の敷地割を感じさせるデザインとする

亀甲状石積部
・亀甲状石積を保存するため、橋梁構造とする
・中間部に橋脚を設置

○西側県道からの全景



砂浜への階段

焚場
・砂浜の下の焚場もそのまま保存

○部分イメージ



既存護岸
・歴史的価値のある護岸
・敷地ごとに形や素材が異なる特徴

既存護岸と新設護岸の空間
・排水機能を確保
・既存護岸を保存し、水叩き部分（歩行部分）から見えるようにする

新設護岸
・高潮による浸水や越波による被害を防ぐ
・周辺の景観と調和するデザインとする
・天端には石材を設置

○部分イメージ



水叩き部分（歩行部分）
・保存された既存護岸が見える
・柵を設置して歩行者の安全性を確保

新設護岸
・下部は石積み護岸
・周辺の風景と合わせる
・コンクリート部分は波を返す曲線形状

江之浦～焚場地区 詳細デザイン

具体的イメージ：砂浜部

○砂浜部（平常時）



起伏式ゲート

- ・平常時は砂浜へのアクセスがしやすいようゲート扉体を砂（土）中に格納
- ・周辺の砂を用いた舗装
- ・周辺の風景になじむようにする

○砂浜部（高潮時）



起伏式ゲート

- ・高潮時にはゲートの扉体が立ち上がり、高潮による浸水を防ぐ

具体的イメージ：江之浦南地区護岸部

○江之浦南地区



新設護岸

- ・下部は石積み護岸
- ・天端には石材を設置
- ・周辺の風景と合わせる
- ・コンクリート部分は波を返す曲線形状